

平成27年度学生支援プロジェクト採択事業一覧

No.	プロジェクト名	概要	配分額(円)
1	第9回 わくわくコンサート	一般の音楽会に参加することが難しい児童と保護者、サポートの必要な方等を対象としたコンサートを運営し、音楽鑑賞の機会を提供する。そして、市民の「共生」の場とすることを目的とする。 ・香川大学生に加え、地域の方々の協力も得ながら運営する。地域社会の人的な交流の場としての性格を併せ持つ。 ・「ロビーイベント」の企画・運営を行うとともにテーマ国の文化を楽しむ。	230,000
2	直島を歩こう！ Let's ロゲイング！ —直島未来会議の結果を受けて—	昨年度は、当該事業の支援を受け、直島で様々な立場の人が一堂に会し、直島の魅力や問題点などを話し合う直島未来会議を開催した。今年度は、この直島未来会議の中で明らかとなった直島の魅力の活かし方や直島の問題点の解決方法を実行することを目的に、ワークショップの結果から出てきたアイデアを現実のものにしたい。具体的には、島民からの「直島への観光客のまわり方がせわしない」や「直島のアート以外の良さを知ってもらえていない」という意見から、直島への観光客に対して、直島の町並みや島民との交流も楽しんでもらうことを目的としたロゲイングを開催する。 本事業では、ロゲイングで使用する地図を作成、香川県庁のてくてくさめぎのご協力のもと、季節や地区にあったロゲイングを複数回実行する。ロゲイングとは、地図をもとに、時間内にチェックポイントをまわり、得点を集めるスポーツである。	292,000
3	なえどこ夜教室	私は香川大学で、地域活性化に関する活動の情報不足、相談者や同志との交流の場の不足、気軽に参加できる学びの場の不足という現状を感じていました。そこで、地域活性化について学ぶ機会を学生自ら創り出し、広く大学生に学んでもらえる仕組みを作ることとを目的に活動を始めました。その一つが「なえどこ夜教室」です。これは毎月2回「地域」「働く」をテーマに、いろいろな地域で地域活性化や地域にかかわる仕事・活動をされている方をお呼びして講演会やワークショップを開催するという学生企画による学生のための勉強会です。今回は、なえどこ夜教室の継続とこれまで講演をしていただいた講師の方の職場に実際に行ってみて、講演会で学んだことをより深める「なえどこ青空教室」の実施を考えています。	142,000
4	香川を伝える ～University radio project～	本プロジェクトは、「香大生が今の香川を伝える」という取組である。 私たちは平成25.26年度の2年間にわたってラジオ番組制作を行ってきた。今年度は主に香川の地域ニュースや出来事を大学生の目線はどう考えているかをレポートしていく。その際、経済学部・法学部・工学部の学生で構成されている団体であるという強みを用いた番組制作をする。例えば、経済学部の学生が商店街のことについてレポートし、番組内でディスカッションを行う。それぞれの学部によっていろいろな見方がある。自分たちだからこその香川県内のニュースや、全国の時事問題を取り上げる予定である。(FM高松で原則毎月1回放送予定。他に動画でも発信検討中。)	175,000
5	輝け！ Bonsai Girls！	高松市は盆栽の全国シェア8割を占めているにも関わらず、盆栽のイメージは、「男性」、「高齢者」、「お金持ち」という印象が強く、若い世代にあまり馴染みがないというのが現状であり、全国的に見ても盆栽を行っているという若者はまだまだ少ない。 そこで、今までの盆栽のイメージとは真逆の「女性」で、「若者」で、「お金をあまり持っていない」、私たち女子大生という新しい立場から盆栽について情報発信することによって、多くの人に盆栽にもっと関心を持ってもらいたい、高松盆栽を盛り上げたいという目的からこの事業を計画した。 この事業では、盆栽作家や高松市役所と協力して、私たちが自ら盆栽ワークショップを開催したり、私たちが盆栽作家取材して、SNSなどを活用して盆栽の魅力を国内外に情報発信することで、若者を中心に盆栽をより広く身近に感じてもらうこと。	291,000
6	三侯山荘における安全安心な登山をめざして	三侯山荘に併設されている診療所の資料(医療関連図書)を充実させることで、医療の質の向上を図ります。 登山客へ登山における医学的技術と知識の普及活動を実施し、安全を確保します。	186,000
7	かがわぬいぐるみ病院プロジェクト	・保育園、小児病棟、地域の祭りなど、子どもが集まる場で模擬診察や保健教育を実施することにより、子ども達から医療に対する恐怖心や不安感を取り除き、積極的に治療、予防に取り組む気持ちを持ってもらう。 ・子ども達に体の仕組みについて興味を持ってもらう。 ・実施に参加した子ども達を起点として、子ども達の家族や地域に疾病予防の輪、健康づくりの輪を広げていく。 ・ぬいぐるみ病院に携わる学生自身が、正しい医療知識を身につけ、さらに行動力や発信力を養う。	256,000
8	伊吹島-出部屋-より未来へ発信 ～ハートの島より愛を込めて～	・出部屋で産後を過ごした人たちも高齢となり、今後歴史的な価値ある文化の継承が困難となる可能性があるため、その人々の語りにより当時の様子や思いを伝え多くの人に知ってもらう。 ・出部屋の歴史や文化に触れることで、「いのち」が生まれることについて若い世代の人々が自己の考えを見つめる機会を提供する。	294,000
9	香川大学医学部における学生主体での国際交流事業の促進	留学生からの意見としてあがっている、「もう少し日本の学生と関わりたかった。」「日本について学びたかった。」という要望の改善と、日本人学生の積極的な交流プログラムへの参加を促し、語学力の向上と異文化理解を目的とする。	300,000
10	防災の輪を広げよう ～東日本大震災から5年、忘れない～	このプロジェクトに参加するメンバーは「防災ネットワークプログラム」の第一期生であり、防災に関して知識を深め、様々な実習等を行ってきました。東日本大震災がおきて4年経った今、当時の震災への危機感が薄れてきており、行動力のある我々大学生が地域の防災意識を高めるきっかけを提供していく必要があると考えました。 そこで、知識や経験を学んでいる私たちが中心となり、防災を身近に感じられるような防災イベントを行います。	200,000
11	棚田発！日本のこころのプロジェクト	小豆島中山地区の棚田は、全国棚田百選に選ばれており耕作以外でも文化的景観として注目されている。しかし近年、耕作者の高齢化により放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっている。SUIJIや昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私達にも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の地域振興を目指している。 昨年度の経験から小豆島棚田に対する県民の認知度が低いと思われた。今年度は棚田維持活動を継続するとともに、小豆島中山地区の棚田景観、棚田米の素晴らしさを、より多くの香川大学生、県民にアピールする。また、もち米などを使った特産食品の開発も試みたい。他にも、伝統文化活動にも参加することにより棚田だけでなく、地域全体の持続可能な社会形成に取り組みしていきたい。	298,000
12	～香農だから可能に出来る～ 地域密着！未来を育むプロジェクト	本事業では以下の2つのプロジェクトを柱として行います。 1つ目は商品化を視野に入れた食品の開発です。昨年行った希少糖を用いたパウンドケーキの販売が非常に好評でした。その過程で、「他の製品も食べてみたい」という声が多数あったため、(地元三木町の特産品を使った)新たなオリジナルブランド食品の開発を行い、大学の活性化を目指します。 2つ目は、昨年好評だった食育・収穫体験を今年も行います。子ども達に実際に野菜の収穫してもらったり、食育についての授業を受けてもらうことで、農業や食料についての見識を広げてもらいます。	240,000
13	ボート体験教室 —香川からのオリンピック選手輩出を目指して—	本プロジェクトでは中高生に対し、普段経験する機会のないボートを体験してもらう場を設けます。中高生のうちにボートを知ること、大学に入ってからボートを始めようとするきっかけになります。そうすることで、ボート人口を増加させ、2020年の東京オリンピックをはじめとして、国際大会で活躍できる選手を香川から輩出します。 ボート競技は競技歴が選手の力に大きく関係する他のスポーツに比べ、競技歴がそれほど影響しません。実際大学から始めた選手が世界で活躍する例も多いです。そのため、他の競技よりも、中高生への働きかけが有力選手の発掘へと繋がりますと考えます。 中学生程度から大人までを対象にしたボート体験会を、香川県ボート協会に協力をいただいていた開催します。香川全域に告知を行い、秋までに数回実施する計画です。	241,000

配分額合計 3,145,000 円